

## 4 「授業改善のための工夫の見せどころシート」の取組

## SSHかわら版第1号

2020.4.28

## 学びを支援する

昨年紫色のファイルに綴じて配付された【熊本県立高等学校教育課程編成の手引】には、今回対応がせまられている休校中の学習支援に関するキーワードが多数ちりばめられています。

新課程を見据えた工夫が、今迫られている問題解決に役立ちます。生徒への学習支援の観点こそ、3観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」です。英語のQ&Aに書かれている内容を引用します。(手引p114、一部改変)

- ① 評価の観点が「知識・技能」に偏ってはだめですよ
- ② 評価しようとする能力を正しく測れるものにして下さいね
- ③ 可能な範囲で年度当初に生徒に示して下さいね

時間割モデルを示すということが、③のことです。「知識・技能」に偏らないよう、どんな能力を育てようとしているのか、それが測れるような工夫をして下さいということです。

また、手引では観点別評価の在り方で、「生徒へのフィードバック」が重要である、質を高めなければならない、としています。休校中の今なら、classiでの投稿へのコメントというものを活用することで、ここへの対応につながっていきます。このコメントもフィードバックの1つです。3年生国語科では、生徒が課題に取り組んだ中からわからないところを集め、その解説動画をフィードバックされる計画です。まさに充実したフィードバックだと思います。教科の特性を生かしたフィードバックが、計画の中にちりばめられていることが、後の評価の根拠となっていきます。

根拠となるものですが、classiのポートフォリオにある機能の「アルバム」を活用することも1つの方法です。休校中でも、ここにある記述を評価の根拠にしていくということ、生徒に知らせ、十分な思考の上投稿させる。その評価の基準を示しておく。ということで、学期末、年度末での評価ができますし、それが昨日の「臨時休業期間中の主な学習支援」で書かれていることです。こうしたものを、シラバスに提示しておくことを念頭をお願いします。

ところで、先の手引にある【観点別学習状況の評価の観点及びその趣旨】から「主体的に学習に取り組む態度」の部分だけを抜粋し、一覧にします。それぞれの趣旨の中からキーワードをマーカーで塗ってみてください。

教科	趣旨
国語	言葉と通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。
地理歴史	地理や歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりより社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
公民	国家及び社会の形成者として、よりより社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。</li> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。</li> </ul>
理科	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に

	探究しようとする。
保健体育	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。
芸術（音） （美） （書）	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 美術や美術文化に豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。 書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
外国語	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
家庭	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
情報	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

3観点をICEモデルにあてはめてみると、「知識・技能」がI、「思考・判断・表現」がC、「主体的に学習に取り組む態度」がEと捉えることができるのではないのでしょうか？

ここでマーカーを引いていただいたキーワードが、教科の中心概念になるものだと思います。グラフィックシラバスには、その視点を盛り込んで作成していただくといいのではないかと考えます。生徒が学習の見通しを持ち、振り返り、学んだことを意識できるツールとしてグラフィックシラバスを活用ください。

もう一つ、「Finkの意義ある学習分類」の視点が、この3観点に集約されているように思います。（「学習ハンドブック アクティブラーニングを促す50の技法」p5から引用）

基礎知識	授業の中で、他の種類の学習の基礎を形成する情報、アイデア、視点を理解し、覚える。
応用	基礎知識が有益となるように、批判的および創造的思考、問題解決、パフォーマンス、スキルを通して実際の情報に知識を応用する。
統合	アイデア、学習経験、生活を関連付ける、それら全てを文脈の中で捉え、学習をより強力なものにする。
人間性	学習していることの個人的および社会的な意味を学ぶ。そうすることで、自己と他者について学習するとき、その学習に意義を持たせる。
関心	学習者が、自分が学んでいることに関心を向けるのに役立つような新しい感情、関心、価値観を培う。そうすることで、学習内容についてより多くを学び、それを自分の生活の一部にするのに必要な活力が得られる。
学び方の学習	学習を継続し、より高い効果を生み出せるように、特定の種類の探究法（科学的手法など）や自律的なより良い学習者になる方法を含め、学習のプロセスについて学ぶ。

「基礎知識」が「知識・技能」、「応用」「統合」をまとめて「思考・判断・表現」、「人間性」「関心」「学び方の学習」をまとめて「主体的に学習に取り組む態度」と読み取ると、評価につながる観点として、どのような学習を設定していけばよいのかの参考になると思います。

## SSHかわら版第4号

2020.11.16

## 授業改善のための工夫の見せどころシートを磨きましょう


不定期発行 SSHかわら版です。いよいよ「見せどころ設計マニュアル」の編集に入りますのでお知らせします。(まだの方はお急ぎください。IDの前提の方もお取組ください。)

さて、年度当初にお知らせしていた期日 9月30日は過ぎていますが、今まさに手を付けようと考えていらっしゃる先生方も、あるいは手を付けようとしたものの困りごと発生中という方もいらっしゃると思います。

そこで今回は、見せどころシートの「視点」(左側に配置されている項目)について少しお話しします。

最初に立ち返って思い出してみると、これまでに3年間使ってきたことで忘れられていることもあることに気づきました。「わかりやすくするためにこうしよう」という工夫が、本来の意味を汲み取りにくくしてしまっている、ということもあります。使ってみて、工夫を加えて、また使って考える・・・という、まさに形成的評価をしながら進めているということを実感しています。先生方と使いながら、使いやすいように考え変えていくことで、みんなで評価力に磨きがかかっています。第二高校の生徒を対象とし、オーダーメイドの取組が進んでいるということです。

フレームの最後に記述してありますが、元となったフレームとすり合わせてみた説明を記載することで、本来の意味を振り返ってみます。

視点		この下欄には、本来の意図と本校に合わせて工夫を加えた点を説明します。	参考頁
科目名		科目名を記載してください。このシートは、学校行事や職員研修についても表現することが出来ます。その場合は、行事名・事業名等を記載してください。	
出入口	1 生徒	元となったフレームでは、「誰に何を教えようとしているのか」という欄です。この点を意識して、③の特徴・ニーズを記載してください。	第13章 第14章 p148 学習目標
	2 授業の位置付け	元となったフレームでは、「研修不要者と準備不足者を入れない工夫は十分か」という欄です。生徒の準備状況を把握することが、授業運営に大きく影響します。その把握のために、この授業の前段階で学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか、と前提条件を記載するようにしています。また、この授業が終わった後にどこで使うのかがはっきりすると、どうつながっていくのか見通しにつながりますので、「次にどこで使いますか」という表現の項目をいれています。IDの特徴(らしさ)である「出入口」の御理解のため、学習設計マニュアル第13章 p139 をぜひお読みください。	第13章 p139
方法・内	3 本時の内容と具体的方法(C/Eの問い、指)	本校のフレームは、単元を見通すことができることを目指しています。そこでここには、単元の全体像と、その単元を貫く問いの位置付けを意識できるような構成としています。この問いについて取り組むようなプロジェクトを実施したり、レポート	第13章 p141 学びの構造図 第3章 p31 練習

容		導方法、展開)	を出題したり、考査で思考を促す問題を出題したり組み合わせでいただくということです。つまり、「評価問題」を意識して授業をデザインする部分です。	1
評価	4	教員の評価の方法	①本校独自の工夫を加えた項目です。ここにICEモデルの視点が入っています。視覚的な順序に思考が制御されてしまうため、フレーム内の配置は、上段から、ECIとしています。 ②幅広い側面での理解の伸長のため、定期考査だけの評価とならないようにするための項目です。様々な工夫の組み合わせを実施していただくことで、令和4年度からの新3観点評価ができるように工夫をお願いします。	第14章 P153
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	本校独自の項目です。教師側の意図として、どのような重みづけでこの単元(素材)を位置付けているかを表現します。生徒のリフレクション(例えばアンケートなど)に配置し、その結果を把握すると、教師側の意図と生徒の受け止めを比較することが容易にできます。講演会では、この項目をアンケートに用いて確認に使っています。	(R1 見せどころ設計マニュアル p2)
生徒の自己評価	6	リフレクションの方法	本来のフレーム自体が、取組をリフレクションする位置付けで書くものでした。そこで二高版見せどころシートでは、教師側と生徒自身の評価を分けて記載しています。この欄には、生徒がどのようにリフレクションをするか、という項目です。	第17章 P184 コルプの経験学習
	7	ICEモデルに当てはめると	生徒自身が、学びを確認する意味です。「4 教員の評価の方法」と対応します。文末を「～できたか?」の表現としてください。C/Eの問いに毎時間触れるということではありませんが、単元を貫く問いとして記述していただくことを想定しています。逆にIの問いについては、複数想定されるはずですので、触れるものの中から、本時を代表する問いを記載してください。	第14章 P153 第5章 P53
継続すること	8	継続する具体的取組	「この授業での振返 教員のリフレクション」としていましたが、この意図は、この単元の取組を振り返って、これからもこれは継続していくと振り返って考えて記述する部分です。そのような理由で、わかりやすさのために、一番左のタイトルも今後「継続すること」としたいと思います。	第15章 メリルのID 第一原理 第13章 p138
	9	IDモデルにあてはめると?	この本来の記述は、「その根拠となるIDモデル」でした。これを「IDモデルにあてはめると?」とした方が分かりやすいという声があったため変更したのですが、昨年「工夫の根拠」と入れた方がいいと助言があり、結局もとにもどっています。このわかりやすさを求める議論をするということで、使う人に理解が進んでいくということを感じている項目だと思います。ということで、来年のフレームでは、「IDモデルにあてはめると? (工夫の根拠)」とします。 それに加えて、出来る簡単にわかりやすく、という要望でIDの10のツール一覧だけを掲載してきたのですが、「わかりやすい」は情報が少なく「結局わかりにくい」になります。いくつかのよく使うツールについて、右欄「学習設計マニュアル」に記載のページを御活用ください。	第14章 P148 学習目標の5分類 第11章 ARCSモデル などは意識しやすいのではないのでしょうか?